



ハンチントン西壁
1976年6月24日登頂
大阪府勤労者山岳連盟隊
撮影・提供・織田博志

これまでの登山・労山…そしてアルパ インクライミングのことなど No.8

くすのき山遊会 織田博志

修業し鍛錬を続け培われた実力 = 第六感

教師に恵まれて培われた学び方・行動の仕方

労山では教育遭難対策部があります。教育と言えば、私は小学校から教師に恵まれ、詰め込み教育されたグライダー型ではなく、自分のエンジンで飛ぶ飛行機型に育てられました。`何で?、`こう工夫すれば、という考え方と読書の習慣も身につけていただきました。

何かに挑戦する時、アメリカの民衆詩人ホイットマンが言うように「徒歩で私は陽気に歩き出す」風に、いったん決意したら行動するようになりました。そう

してアルパインクライミングの分野に挑戦しました。

私の修行時代には、例えば「地形図読本」や「天気」に関する本は先輩から`これを読んだら良いよ、と教えられ`理解できなかつたら何度でも読んだらわかる、と、励まされ実行しました。脳科学の世界では`七回読めば大丈夫、と言われていたのでやり方としては正しかったのだと思います。

リーダーとしての実力を確かめる

私の修行時代には山岳会には、合宿という教育遭難対策の場がありました。春夏秋冬の4回の合宿と別に、2回の強化

合宿がありました。休暇を取り参加することに大変苦勞しました。合宿中に他の山岳会の事故に遭遇し、救助要請を受け救助活

動をしたことも何度もありました。

現在の登山での教育遭難対策部の各種研修会では終了の時に評価基準があり、講師たちが集まり判定会があると聞いています。

私の修行時代、凍稜会のチーフリーダーから代表に移る年に、試験を受けよ

うと決めました。

登山の分野で試験といえば、当時、社団法人日本アルパインガイド協会、アルパインガイドの入会審査がありました。

私は、アルパインクライマーとして、リーダーとして自分はその実力があるのだろうか？と思ったからでした。

アルパインガイド協会入会・文登研での研鑽

協会に問い合わせ、実技試験と学科試験があると知りました。実技試験から受験しました。私は修行時代に十分に実力を培ったようです。合格して会員となりました。

協会には日本を代表するようなアルパインクライマーが会員でした。私は以後、多くの優秀なアルパインクライマーと交流することができました。山本一夫さん、近藤邦彦さん、長谷川恒男さん、鈴木昇己さん、素晴らしい実力者たちと出会えました。東京での月1回の理事会に行くのが楽しみでした。

私は80年代から文部省登山研修所(当時の名称)の講師として研修会、講習会に参加できました。柳澤昭夫先生がおら

れる文登研では最新の知識や技術を研鑽することができました。遭難対策研修会では、長年にわたりロープアクセス、ワイヤーアクセスを研鑽しました。文登研では多くの専門職の先生方の講義を繰り返し繰り返し、研修生の皆さんと共に受講できたことが「何度も読んだらわかる」と同じで身についたと思います。

文登研の講師を続けるなか、ヒマラヤ登山の計画があり、次々と参加できました。84年のガウリシャンカール、88年のエベレスト、94年のバギラティ2峰、湯浅先生、柳澤先生との思い出と共に仕事と「自分の山」に「陽気に歩き攀じた成熟の時」でした。

膨大な量の実践・体得・第六感

膨大な量の実践を続けてきました。実践のなかでしか得ることのできない「まさに体得」です。量が質に変化していき、何が得られたか。うまく説明できません

が、それは「第六感」という言葉で表せるように思います。このおかげで危うい目にあるところを何度も救われています。まさに「守られた」と思う時でした。